

小山をよくする会

歴史と文化を活用した地域づくり

～ふるさとを誇る住民意識の啓発事業～



赤枠で囲われたところが小山地区

1 基本データ

大野市小山地区は、人口約2千人、世帯数は約600戸。15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域である。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきた歴史がある。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会である。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動している。

2 現状と課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る地区である。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。

この活動をベースとして、平成22～26年度に実施された「結の故郷づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり事業を展開した。

事業を実施するにあたり、次の二つを事業の柱とし、事業の実施方針とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、これを地区住民に知ってもらい、地域を誇りに思う住民意識の醸成を目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」を後世に承継していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。地域住民が一丸となり、地域の課題を住民が知恵を出し合い協働で作業し解決するといった風土を継承していくために支援していくものである。

3 事業の内容

①歴史と文化の里づくり事業

平成23年度に地域の歴史の掘り起こしを目的として開催した地域歴史講座に、講師としておいでいただいた青木豊昭氏（県立一乗谷朝倉遺跡資料館 元館長）が、小山地区の史跡などに興味を持たれ、独自に史跡調査を実施された。

その結果、南北朝時代の戦を記録した軍中状に記されている「舌城」が、御城山（上舌地係）に存在していたことがわかってきた。

また、御城山に38基ある古墳群に墳丘の長さが約30メートルの前方後円墳が確認された。

奥越地区唯一の前方後円墳と言われる山ヶ鼻6号墳（尾永見地係）に次いでこの発見である。

歴史的に貴重な史跡として確認された舌城を地域内外の方に知ってもらうために、平成24年度より散策道の整備を開始し、今年度全区間が完了できた。

御城山は、標高244メートルで高低差は約50メートルの低い山であるが、人が歩けるような道が全くなかったところを切り開いて道を作ることは重労働であった。今後はこの作業道を維持していくことが重要であり、下草刈りなどの維持管理を継続して行く必要がある。

平成27年度舌城跡遊歩道維持作業

今年度作業内容としては、遊歩道の維持を目的に、下草刈り、案内表示の取替え等を実施した。

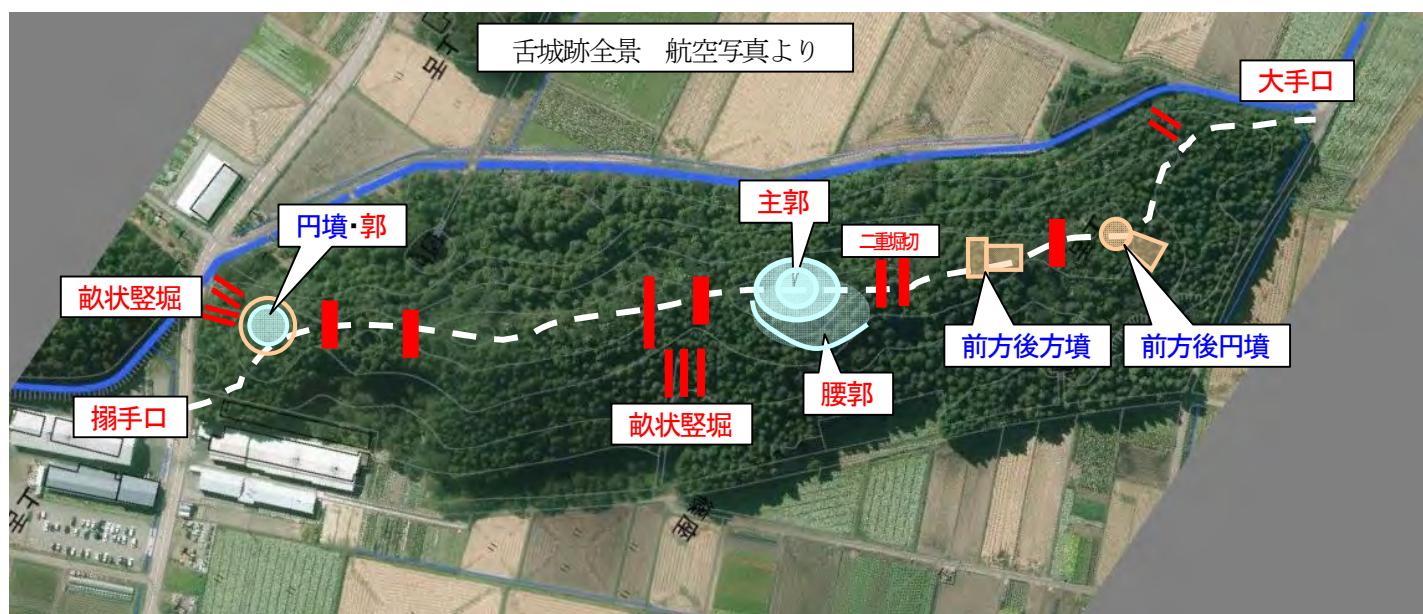
また、小山地区史跡めぐりウルトラクイズを開催し、新たに発見された舌城跡を含め、地区住民に周知する取組みにも力を入れている。参加者からは、「主郭・堀切などの山城跡がはっきりと姿を現し、中世の戦いの舞台へタイムスリップしたようだ。」という感想が聞かれた。



〈案内表示の取替え作業〉



〈小山地区史跡めぐりウルトラクイズ〉



小山地区のシンボルである飯降山を見つめなおすきっかけになるよう小山地区総ぐるみ飯降山登山を安全・快適に実施できるよう、登山コースの整備を行った。整備内容は、登山コースの下草刈り、登山口に案内石柱の設置、○合目表示の取付け、山頂付近の見晴らしをよくするための低木伐採を行った。



〈山頂付近の草刈りと低木の伐採〉



〈登山道入口の石柱設置〉



〈○合目の表示設置〉

このことにより、10月5日（日）に実施した登山に参加した196名は、安全・快適に楽しむ中で、飯降開山の縁起、中腹に残る神社の存在、地元に残る伝承行事などに触れることができ、地区のことを知り、地区を誇りに思う心が育まれた。



〈飯降神社の秘仏を拝謁〉



〈見晴らしが良くなった山頂〉

あわせて、毎月1回発刊している小山公民館報「かわら版おやま」では、5月号から飯降山を様々な角度からシリーズで紹介し、地区総ぐるみによる登山への機運を高めた。

- 5月号 飯降山と篠座神社の歴史
- 6月号 地元に残る伝承の紹介
- 7月号 忠魂碑と飯降山との位置関係
- 8月号 伝承を伝える飯降集落の取り組み
- 9月号 神社の秘仏ご開帳と56年豪雪被害
- 10月号 雪崩対策の歴史と飯降山スキー場
- 11月号 射撃演習場跡と子どもたちの遊び
- 12月号 飯降山の全体像

②地域コミュニティ支援事業

今年度も、6地区において集落内の問題を解決するための事業と、小山地区内有志で組織された実行委員会による地域・世代間交流事業が計画され、提案された。

穴僧の洞アクセス道整備（継続・完成）
（阿難祖地頭方）

集落内公園芝生植栽（阿難祖領家）

集落内ビオトープ芝生植栽（上黒谷）

なだれ防護壁前集落道舗装（下黒谷）

集落作業道の車待機所設置（上荒井）

ふれあい会館敷地内一部コンクリート舗装（深井）

住民交流事業「キッズフェスタ」（実行委員会）

毎年、提案された事業費総額が交付金予定額を上回るため、小山をよくする会推進委員会において交付金の配分額を決定した。

阿難祖地頭方区では、阿難祖の地名の由来とされる穴僧の洞までのアクセス道の整備を平成25年度から行ってきた。車両が通行できる林道から、洞までの約200mについて、3年間をかけてコンクリート舗装を継続実施し、今年度完成した。このことにより、入口から洞まで誰もが気軽に見学できるようになった。

小山地区史跡めぐりウルトラクイズの視察コースに初めて導入し、地域の方や子どもたちが見学できるようになった。



阿難祖地頭方地区のアクセス道整備

阿難祖領家地区では、集落センターに隣接する公園で雑草が多い状況であった場所を整地し、芝生を植栽した。これにより、集落内の子どもたちが仲間と集い、集団活動や社会性などの育成の機会を提供することができた。



阿難祖領家地区公園の芝生植栽

上黒谷地区では、集落内にあるビオトープへ芝生を植栽する事業を実施した。雑草取り、山砂敷き、芝生張り、目串止めを集落の住民により実施した。

このことにより、集落内の住民が力を合わせて作業し、自分たちが住む住環境を美しく維持していくことで、失われつつある共同作業の大切さを実感する機会が生まれた。

集落内の住民が集いおしゃべりをし、住民交流する場所として利用されている。



上黒谷地区ビオトープの芝生植栽

下黒谷地区にある平成8年に設置された雪崩防護壁には集落の平穏無事を祈願した観音像レリーフが飾られている。

近年、テレビ番組で紹介されたことから注目が集まり、市内外からここを訪れる人も多くなってきたことから、雪崩防護壁の脇の管理道路をコンクリート舗装することとした。

全長約450mであることから、4年間をかけて継続的に実施することが集落内で話し合われた。

初年度である今年は、約50mのコンクリート舗装が完了した。



下黒谷地区の雪崩防護壁管理道路コンクリート舗装

上荒井地区では、集落住民で話し合いを持った結果、集落の水源地やお不動さんがある裏山までの集落作業道の途中に、乗用車がすれ違えるようにする車待機場所を整備することとした。

作業道の入口から約300mの間、車がすれ違える箇所が全くなく、上りと下りが向かい合うと片方がかなりの距離をバックしなければならない状況であった。

今回の整備で、すれ違える箇所を2箇所整備できたことで、利便性が格段に向上し住民は大変喜んでいるところである。

自らの集落の問題を自らで話し合い、自らの力で解決できたことで、集落間の繋がりがより

深まることができた。



上荒井地区の集落作業道整備

深井地区では、集落センター周辺は水はけが悪く建物に対してよくない状況であった。この問題を解決するために、集落内で話し合いを持ち、周辺をコンクリート舗装することとした。

当初、原材料の購入経費のみを見込み、事業計画を作成したが、事業実施にあたり、コンクリート舗装の仕上げができる人材が集落におらず、長く残る舗装なので業者へお願いすることとなり、急きよ、集落の経費で対応した。

集落センター周辺は、水はけもよく、明るい雰囲気となり、建物の劣化防止も期待できる。



深井地区の集落センター周辺整備

小山公民館で活動するグループの有志により結成されたキッズフェスタ実行委員会により、地区全体の交流、世代を越えた交流の機会として、キッズフェスタが今年度も継続して開催された。うすと杵を使った餅つきを子どもたちに体験させる内容とした。家庭での餅つき体験が少なくなりつつある中、子どもたちに餅つきを体験させる良い機会となった。また、地域に住む餅つき熟練者を招き指導してもらったことで、世代間の交流も生まれ、地域の絆が深まったイベントとなった。

さらには、地域の壮年団体「小山一龍の会」のメンバーも参加、子どもがいない世帯からの参加もあり、イベントを通しての人と人とのつながりが広がりを見せている。

継続して開催していることから、住民への認知度も高まり、参加者の増加も期待している。

毎回、参加者からは大変な好評価を得ている。



キッズフェスタの様相

4 事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

歴史的に価値のある史跡を地域住民に知ってもらうための本事業では、「小山地区総ぐるみ御嶽さん登山」に向けた登山コース整備を行った。

登山道入口に石柱を設置し、山頂付近の見晴らしを良くするための下草刈り・低木伐採を行い、登山者の目安になる〇合目の表示板を設置

するなど、参加者が快適に登山できるような配慮を行った。

また、飯降山は地区のシンボルとして小学校の校歌などに登場するなど、地区の人々に親しまれているところである。これには、地区の歴史と深い関係があり、これらを小山公民館報「かわら版おやま」においてシリーズで紹介したり、山頂にある飯降神社をご開帳するなど、地区住民に飯降山の素晴らしさを周知できた。

このことにより、地区を知り、地区を誇りに思う心が育まれたと考える。

また、整備開始から4年目を迎え、舌城跡は気軽に散策を楽しめるコースとして定着しつつある。今年度の作業は、下草刈りや日焼けて薄れかかった案内表示の取替え等を行った。

参加者はいにしへの山城や古墳を肌で感じ取れたようである。また、地区の史跡をめぐる「小山地区史跡めぐりウルトラクイズ」を開催し、住民への周知を図るとともに、地域を誇りに思う住民意識の醸成に取り組んだ。

参加者からは、小山地区に住んでいながら「地域の歴史で知らないことが多いことに気づいた、地域の歴史に興味があった。」などの声があり、地域の歴史を知り、興味を持ってもらい、地域を誇りに思う意識が芽生えつつあると言える。

②地域コミュニティ支援事業

集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくこの事業を実施したことにより、集落の共助や絆の大切さを再認識することができた。

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている地区である。しかしながら、農作業の機械化や就労環境の変化などに伴い、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつある。本事業で地域の課題を話し合い、共同作業により解決することは、“結の精神”

を継承する上で大いに役立ったと思う。

また、地域交流・世代間交流を目的に実施したキッズフェスタでは、昔ながらの食文化を受け継ぐきっかけとなり、イベントを通じた交流が深まった。

5 今後の展望

継続したテーマを掲げ取り組んだ結果、事業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えている。

小山地区には、市内外に誇れる歴史、伝統文化が息づいている。これらを掘り起し、地区住民が知り、誇りに思うことで、地区を愛する心が生まれ「結の故郷」が形成されていく。今後は、地区に息づいている歴史、伝統文化を広く住民に伝え広めること、継承されている伝統芸能などの火をともし続けることが大切であると考える。

歴史と文化の里づくり事業においては、舌城跡の下草刈りを毎年行うなど、地区内外の方々が気軽に散策できる道を保全していく必要がある。また、整備された遊歩道を利用し、地域住民への史跡説明会などのイベントを開催し、引き続き住民周知に力を入れ、地域の歴史を通じて、地域を誇りに思う意識をさらに広め、高めていく必要がある。

また、地域コミュニティ助成事業については、事業の目的としている“結の精神”の継承を図るため、事業を継続していく必要がある。

農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力する精神を今後、長く継承するためには、継続した取組みが必要である。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識や機運がより高まるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたいと考えている。